

**【平成20年度】
三島町文化財総合的把握モデル事業
中間報告**

福島県三島町教育委員会

①三島町歴史文化基本構想のイメージ

三島町の概況

【人口】2,066人(高齢化率44.97%)
S50 3,766人→減少率43.3%

三島町の文化財

【歴史】

- ・高僧徳一と関連した仏教文化(延命寺や雄仁)
- ・只見川、只見線

【有形文化財】

- ・県指定重要無形民俗文化財 荒屋敷遺跡出土品(縄文)

【天然記念物】

- ・キマダラルリツバメ、オナカナシ、大ケヤキ

【無形文化財】

- ・国指定重要無形民俗文化財 三島のサイノカミ
- ・県指定重要無形民俗文化財 鳥追い、虫送り など

【その他】

- ・昔語り、伝説、民話
- ・街道、峠
- ・農村景観、宿場の町並み
- ・ものづくり
- ・昔遊び、わらべ歌
- ・年中行事
- ・石仏、石祠
- ・近代遺産(只見線など)
- ・建築様式 など

●地域と地域住民が主人公の構想づくり

過疎・少子高齢化が進み、地域そのものの存続性が危ぶまれる。地域の存続のために文化をどう位置づけしていくのが課題。そのために、地域とそこに暮らす住民の手によって伝承されてきた文化財を保存・継承・活用していくことを住民自ら実践していくための構想づくりを目指す。

●構想の全体プラン

①三島町の文化戦略

ふるさと運動(S49開始、都市農村交流の先駆け)の成果を踏まえて、これまで掘り起こしてきた地域資源を活かし、文化を核とした地域戦略を創る。

②文化財を保存・継承・活用していく意義と町としての方針

文化財の多くは地域と地域住民が伝えてきたもの。住民自らがこれらを伝えていくことの意義を考えるとともに、文化財行政としての方針を決定していく。

③関連文化財群の設定

④保存・活用区域の設定

地域・コミュニティが伝えている文化財をひとつの関連文化財と捉える。保存・活用の軸となる区域として、地域のつながりとしての街道や旧村単位での区域を設定する。

⑤テーマ・ストーリーの設定

町全体、活用区域を範囲とした大きなテーマ、ものがたりを作成する。

地域とそこに暮らす人々を主人公とした歴史・文化の保存・継承・活用をめぐる「三島スタイル」の構築

②20年度事業の内容－ I

●作成手順

- ①本事業の方向性の理解と共有
- ②構想策定における方針の打ち出し
- ③方針に基づいた構想の内容の検討
- ④各部会の立上げによる調査と保存・活用の検討
- ⑤地域住民との意見交換や講演会等の実施
- ⑥構想の取りまとめ

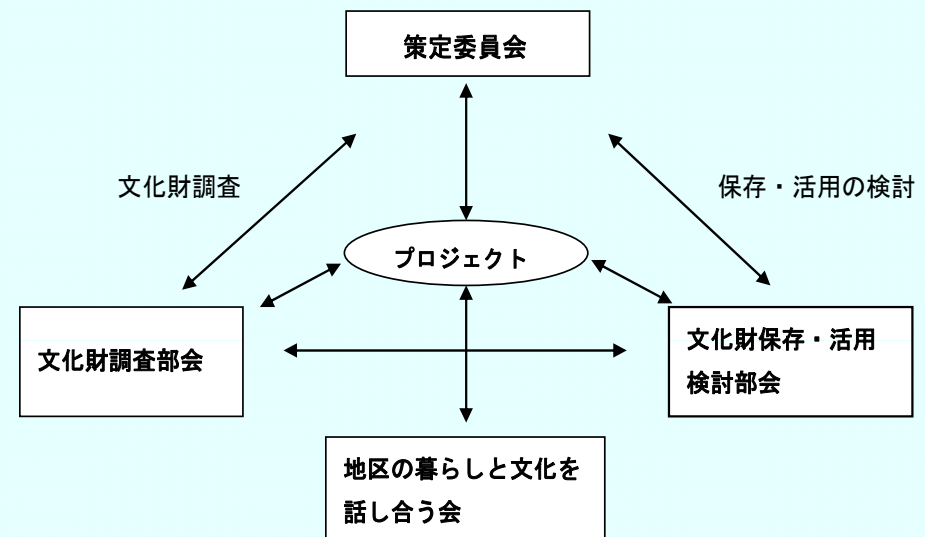
●連携機関

- ①三島町、三島町教育委員会、三島町文化財専門委員会
- ②町内 各地区区長、出版社、有識者
- ③県、県教育庁、県文化財審議委員
- ⑥福島県立博物館
- ⑦会津大学、東北芸術工科大学
- ⑧民間コンサルティング、NPO関係

●体制・組織図・本年度実施内容

- ①三島町歴史文化基本構想等策定委員会(5回)
 - 1)事業の方向性の理解と共有
 - 2)構想策定における方針の打ち出し
 - 3)構想の全体プランの作成
- ②文化財調査部会(2回)
 - 1)文化財調査報告書等の確認
 - 2)文化財リストの作成
- ③文化財保存・活用検討部会
 - 1)保存・継承・活用の意義の確認
 - 2)住民が関与していくための方法の検討
- ④文化財総合的把握モデル事業プロジェクトチーム(15回)
 - 1)本事業の運営全般に関する協議
- ⑤地区の暮らしと文化を話し合う会(2回)
 - 1)地区区長、公民館分館長に対する事業説明
 - 2)滝谷地区における地域住民との意見交換会

●事業実施体制図



③20年度事業の内容－Ⅱ

●三島町歴史文化基本構想策定における基本方針

【テーマ】

地域とそこに暮らす人々を主人公とした
歴史・文化の保存・継承・活用をめぐる「三島スタイル」の構築

三島町歴史文化基本構想を策定するに当たり次の4つの項目を基本的な方針とし、策定委員会及び各部会、プロジェクトは基本方針に基づいて調査、検討を進める。

1. 三島町の地域資源を活かした文化戦略を創る。

まちづくりの骨格である5つの運動(ふるさと運動、生活工芸運動、地区プライド運動、有機農業運動、健康づくり運動)の成果を踏まえて、これまで掘り起こしてきた地域資源を活かして、文化を核とした一貫した取り組みができる地域戦略を創る。

2. 文化財とそれを継承してきた地域社会を包括的に守り育てていくことを目指す。そのための保存・継承・活用の構想とする。

年中行事などが受け継がれてきたのは地域と人々の暮らしがあったからであり、地域社会の抱える課題を洗い出し、地域存続の包括的な対応策を探りながら、新たな文化財の保存・継承・活用の構想を創る。

3. 地域とそこに暮らす住民を主人公とし、交流者を巻き込んだ歴史・文化の保存・継承・活用のための仕組みをつくる。特に若者と女性のまなざしを大切にしながら、複眼的に組み立てる。

町民と交流者とが一体となって地域社会を創ることは、ふるさと運動が目指してきたものであり、今後の山村振興の大きな課題ともいえる。その課題を解決するために地域のアイデンティティとなりうる歴史・文化を保存・継承・活用し、情報発信していくための仕組みづくりを進める。特に若者や女性のまなざしを大切にしながら、複眼的な視点からの保存・継承・活用の計画を作成する。

4. 地域の維持・再生を目指して、産業振興・環境保全・生涯学習などにつながる仕組みとする。

先人達が守り、受け継いできた文化を核としながら、地域住民が主体的に地域の維持や再生に関わる活動をし、文化を活かした産業振興・環境保全・生涯学習などにつながるための実効性のある構想とする。

④三島町文化財総合的把握モデル事業の特徴と今後の事業展開

●特徴

【ものがたりを引き出すプロセス】

①構想、計画づくりのプロセスにおいて住民との対話を重視する

【従前】行政施策のための計画づくり

【本事業】主眼は住民活動。文化財を保存するのは地域住民。対話の中からもものがたりを引き出し、新しい事業、取り組み、活動を促していく。

②歴史、遺跡、民俗、暮らしなど、地域に伝わるありとあらゆる分野からもものがたりを引き出してテーマ、ストーリーをつくりあげる。



●課題

【住民が主人公となる仕掛けづくり】

①地区、住民、行政内部など全体において本事業の取り組みの共有化を図ること。

②歴史・文化の保存と活用に関する町全体の体制の早期確立。

③ものがたりを住民と共に引き出し、学習していく仕組み・仕掛けづくり

●今後の事業展開（21年度）

【策定委員会】

- 町全体を捉えたものがたりづくり
区域の設定とテーマ、ストーリーづくり

【調査部会】

- 策定委員会のテーマ、ストーリーづくりを支える資料、文献、ものがたりの調査

【保存・活用検討部会】

- 住民主体の文化財の保存・活用に関するソフト事業の展開による住民全体で取り組む仕組みと仕掛けづくり

【地区の暮らしと文化を話し合う会】

- 地域住民とともに自分たちの暮らしを振り返りながら、暮らしの中に残る文化の掘り起こしと、住民自らが取り組む学習会を開催していく。

【文化財総合的把握モデル事業プロジェクト】

- 歴史文化基本構想を軸とした地域の活性化策を検討する。



平成22年度

地域とそこに暮らす住民を主人公とした
三島町歴史文化基本構想の策定